

○有望な多収大豆品種の導入により、収量向上が期待できます。

背景・ねらい

- これまで大豆の収量向上のために難裂莢性・耐病性を付与した大豆品種が育成されてきた。
- 更なる収量向上のため、農研機構で育成した多収大豆品種(多収性を備えた米国の品種と日本の品種を交配・選抜したもの)を導入することで、大豆の収量向上が期待できる。

留意点

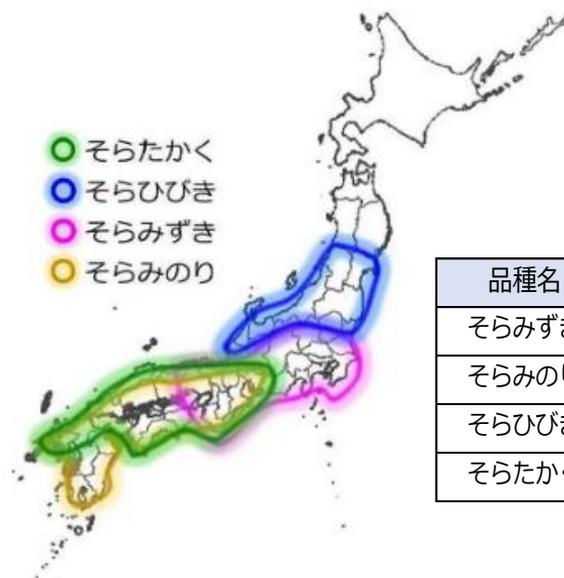
- ◆品種により収穫物の粒が小さかったり、扁平のものがある。
- ◆販売先・実需者との品質評価が必要である。

詳細情報

農研機構

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nics/160417.html
https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/163266.html

多収大豆品種の栽培適地(農水省提供)



品種名	栽培適地
そらみずき	関東～近畿地域
そらみのり	東海～九州地域
そらひびき	東西南部～北陸地域
そらたかく	東海～九州地域

多収大豆品種の試験栽培産地

品種	産地												
	宮城	山形	茨城	群馬	千葉	静岡	新潟	石川	岐阜	滋賀	島根	徳島	熊本
そらみずき			○	○	○	○			○	○	○		
そらみのり													○
そらひびき	○	○					○	○					
そらたかく										○	○	○	